

第十一軍經由

昭和十六年八月八日  
第十一軍經部第五二

富岡報第一四號

具變死ニ關スル件報告

昭和十六年七月十六日

第三十三師團長 櫻井省

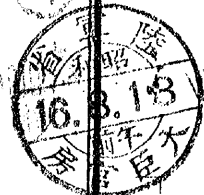
陸軍大臣 東條英機 殿

左記者ニ對スル變死ニ關シ別紙ノ通報告ス

記

歩兵第二百十三聯隊

陸軍兵長



陸軍

別紙

一 所属部隊、官等級氏名（敬称年）

歩兵第二百十三聯隊第二機銃班中隊 機銃班長

(15)

二 自殺月日時

昭和十六年七月九日二十時三十分（推定）

三 自殺場所

山西省榆次縣郭家壘（榆次西方二軒）第二大隊本部 既當番室

四 自殺ノ手段、彈藥ノ出所

1 手段

本人ハ昭和十五年七月ヨリ大隊本部行李班要員トシテ第二大隊

本部ニ勤務セリ七月九日二十時三十分頃 既當番室ニ入り内部ヨ

リ銃ヲ掛ケ室内ニ仰臥シ銃口ヲ頸下ニ當テ右足ノ靴ヲ脱シ靴下

ヲ穿キタル儘引鐵ヲ壓シ撃殺ス

彈丸ハ下頸ヨリ後頭部ヲ貫通即死ス

<p>● 彈藥ノ出所</p>	<p>夜間既營番又ハ衛兵ニ服務スル際彈藥ヲ携行セシムル關係上行 本班ノ彈藥ヲ取纏メ一箇ニ格納保管ノ責ニ任シアリ 自殺ノ際使用セシハ該彈藥ナリ</p>	<p>▲ 平素又ハ自殺前後ニ於ケル參考事項</p>	<p>1 平素常ニ眞面目ナルモ小心ナル兵ナリ</p>	<p>2 中原會戰開大隊本部行幸ノ指揮ヲナシアリシカ中途ヨリ神經痛 ニ罹リ馬ヲ利用行動シ入院ヲ免レタリ</p>	<p>神經痛ハ檢査集給後治療ス</p>	<p>自殺當日タル九日ニ時頃突然起床シ大聲ニテ精誌ヲ朗讀セルヲ 以テ戰友ハ驚キ之ヲ引止メ就寢セシメタリ</p>	<p>同日十五時頃ヨリ約二時間程帽子ヲ冠ラス失天下 附近ニ在リ テ果然ト馬ヲ此メ居レリ</p>	<p>戰友カ「柏村兵長何ヲシテ居ルカ」ト問ヒタルニ「馬ヲ見テオ</p>
----------------	--	---------------------------	----------------------------	---	---------------------	---	---	-------------------------------------

(納谷良・京東)

ルノサ、オイ君ハ美麗ナニ重橋ヲ渡ツタ事カアルカト答ヘタ  
 リ 又同日日夕點呼時「點呼ニ出ルト出發ニ遅レルノタカナ」  
 ト言ヒナカテ點呼ヲ受ケ其ノ後三十分頃自殺セリ  
 3 七月八日（自殺前日）以前ハ何等精神的变化ヲ認メス志氣旺盛  
 勤務ニ精勵シアリタルモノナリ

#### 六原因

隙内及本人ヘノ來信ニ就キ原因トナルヘキ事項ヲ調査セシモ認ム  
 ヘキ事項ナシ

本人自殺當日ノ行動ヨリ判斷スルニ多少精神ニ異狀ヲ來シ厭世感  
 ヲ拘キ自殺ヲ企圖セルモノト思惟セラル家族ノ血族的关系ヲ調査  
 中ナリ

#### 七處置

- 1 事故發生スルヤ各方面ニ亙リ其ノ原因ノ探究ニ努ム
- 2 幹部全員ニ對シ努メテ兵ニ親灸シ絶ヘス兵ノ精神狀態ニ注意シ

其ノ指導ヲ適切ニシ此ノ種事件ヲ未然ニ防遏スヘキヲ示達ス  
ハ責任者ノ處分

事件發生ノ経緯ヲ見ルニ自殺者カ多少精神ニ異常ヲ來シアルモノ  
ノ如ク原因ト認ムヘキモノ外ニ無ク不可抗力ニ屬スト雖モ幹部ノ  
兵ノ精神状態ノ觀察周密ナラサル如ク思料ス依テ關係幹部ニ對シ  
將來兵ノ精神的動向ニ基テ指導ユ一層留意シ此種事件ヲ未然ニ防  
遏スヘキヲ諭ス

#### 15 参考事項

1 家族ハ茨城縣郡河郡菅谷村菅谷三一五二番地ニアリテ父母、長  
男健在、農藥ヲ營ミ生計下位ナリ

2 二男ハ二十五才ノ時病死シ三男ハ二十三才ニテ死亡セシモ死亡  
ノ原因明カナラズ

(納谷史・京東)

宮内報第一一號

重大ナル軍紀違反事項ニ關スル責任者處分及被害者人判決ノ  
件報告

昭和十六年六月十五日

第三十三師團長 櫻井 省

陸軍大臣 東條 英機 殿

五月九日宮内報第十四號ニ依ル首題ノ件左記ノ通報書ス

左 記

一責任者ノ處分

所屬中隊長 鎌備役 陸軍中尉 板橋 重春

(特14)

部下ノ訓育監督指導十分ナラサルニ依リ輕懲三日

(所屬官聯隊長)

所屬聯隊長

陸軍中佐 陳 田 百三郎

(27)

部下將校ノ黨化指導完カラサルニ依リ譴責ス

(廣野實輝團長)

→ 被告人 豫備役 陸軍少尉

憲 後 二 年